



協会に入会したきっかけ

早いもので、東京に転居して3年が過ぎようとしています。1年目は戸惑いながら何をしたら楽しく暮らせるだろうかと、迷いながらの一年でした。C型肝炎も完治し、健康を頂いたお返しを社会に何かしなくては、と模索致しておりました時、佐藤理事と出会いました。素晴らしい巡り合わせとご縁を頂き、関東シニアライフアドバイザー協会に入会し、それをきっかけにボランティアという世界に入りました。

子供たちに囲碁を教えたい

協会に通う中、「囲碁ボランティアを始めたい、子供たちに囲碁の素晴らしさを伝えたい」そんな思いがふつふつと湧き上がってきました。

私の父は囲碁のプロ棋士でした。96歳で亡くなりましたが、私は父から囲碁指導を受けたことはありませんでしたが、60歳になって囲碁を本格的に始め、65歳で二段になり、囲碁普及指導員の資格を取りました。

孫が小学校に入学したのをきっかけに、目白小学校で囲碁指導を始めました。その時は豊島区の小学校囲碁普及がゼロの状態でした。学校、棋院、教育委員会に話し、現在3校の指導をしています。

囲碁のルールと利点

囲碁のルールは簡単です。 黒、白、順番に打ち、陣地の多い方が勝ちです。相手の石の道をふさげばとれる。石の打てないところ、打てる所がある。コウはすぐに取り返せない。囲碁をするとマナーが良くなります。

挨拶をきちんとする。「マッタ」はなし。碁笥の石をガチャガチャしない。対局中のおしゃべりはやめよう。対戦者への口出しは禁止。たくさんの効能があります

計算能力、暗記力の向上、多方向からの思考力、集中力、創造力、コミュニケーション力、失敗から立ち直る力、交渉力、形や空間の認識力と大局観を形成する力、バランス感覚、経済力、変化への対応力、価値判断能力などです。

子供や視覚障害者の指導で得たこと

囲碁指導をして私が頂いたのは、子供たちの笑顔と、目の輝き、もっともっと知りたいという意欲。可愛い子供たちに導かれて、いかに囲碁が素晴らしいゲームであるかを感じずにはいられません。通学路で会う子供たちに、「囲碁先生！」と声を掛けられるようにもなりました。

また、囲碁の導きで、福祉囲碁協会の皆様との繋がりも頂きました。視覚障害者の方々との囲碁対決です。囲碁は、別名「手段」とも言われています。特殊な囲碁盤での、手と手を重ねあい、「ここに打ちました」と言うと、「はい」と言って、相手の方の手が重なります。この様な対局は初めての経験でした。皆様の明るさと活力にはいつも驚かされています。逆に私が癒されていることに、毎回感謝して帰っています。

囲碁を通して活動の輪が広がりました

今年は、昭和の大棋士・木谷実先生を父親に持つ木谷正道氏との交流も始まり、東日本大震災で被害を受けた、大船渡市の囲碁祭りのお手伝いが出来るようになりました。「全国盲学校囲碁大会」で今年は、台湾の盲学校の方々も参加され大きく盛り上がっております。

4月は、私と娘が日本伝統文化教室を開いております「小苦楽」で、子供に囲碁と折紙の文化イベントをいたします。折紙の講師には佐藤先生をお願いしています。

年を重ねるごとに広く大きく、子供たちや障害のある方、高齢者の方々との交流の輪を広げていきたいと頑張っております。囲碁は認知症の治療薬にもなるのです。

これからも時間の過ぎるのも忘れ、囲碁に没頭したいと願いつつ、元気で生かされていることに感謝いたしています。

